

光が丘図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和7年11月20日（木） 15時～17時
- 2 場所 光が丘図書館 視聴覚室
- 3 出席者 利用者 18名
近隣施設職員 5名
（光が丘保健相談所地域保健係長、光が丘なかよし児童館長、青少年育成
光が丘地区委員会事務局長、光が丘地域包括支援センター職員、光が丘
障害者地域生活支援センター職員）
図書館 5名
（光が丘図書館長、管理係長、運営調整係長、事業統括係長、子供事業統
括係長）
- 4 テーマ 「これからの練馬区立図書館サービスについて」
- 5 配布資料 (1) 次第
(2) 練馬区教育要覧 令和7年版（2025年版）
(3) これからの図書館構想（令和4年11月策定）概要版
(4) 図書館だより（第60号）
- 6 次第 (1) 光が丘図書館長挨拶
(2) 図書館概要説明
(3) 図書館・近隣施設職員紹介
(4) 参加者自己紹介
(5) 懇談・意見交換
(6) 閉会の挨拶

光が丘図書館利用者懇談会 会議録

1 光が丘図書館長挨拶

皆様、こんにちは。光が丘図書館長です。本日も忙しい中、利用者懇談会にお越しいただきましてありがとうございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

2 図書館概要説明

練馬区の図書館の概要をお手元にあります練馬区教育要覧でお話させていただきます。教育要覧の117ページの(3)利用情報等をご覧ください。光が丘図書館の利用状況を見ていただくと、区内の図書館の中では、利用登録数や来館者数、個人貸出数が一番多い図書館であることが分かります。また、118ページには練馬区内全図書館をまとめた数字を載せていますが、この数字を国や23区と比較しますと、蔵書数は全国で18位、23区では3位、資料費なども全国で5位、23区で3位、個人貸出数も全国で7位、23区では2位、予約受付数でも全国で5位、23区で2位です。ちなみに1位は世田谷区、人口も多いのですが、

なかなか世田谷区は抜けないという状況です。全国的に見ても、23区でも、練馬区は利用いただいている区だということをご説明させていただきました。

次に「これからの図書館構想」をご覧ください。令和4年に教育委員会として策定いたしました。図書館に関する構想や、10年後の図書館の姿などを示しているもので、様々な施策や取組も載せています。今年度は、重点項目としてコンセプト4「情報へのアクセスを支援する」で、様々な事業を実施しています。具体的には、今年の1月に始まりました電子書籍の貸出しや利用カードの電子化などになります。また、コンセプト3の施策「多様なニーズに応える空間の創出」で、今年度、光が丘図書館で中高生が話しながら勉強や調べ物ができるグループ学習室や、2階の子どもコーナーで親子でおしゃべりができる「おしゃべりタイム」などを試行しているところです。

最後になりますが、本日は昨年に引き続きまして、近隣の関係機関の方にもご参加をいただいておりますので、ご質問やご提案などいただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

3 図書館・近隣施設職員紹介

4 参加者自己紹介

5 懇談・意見交換

利用者 イベントをするときの資格は例えば小学3年生以上とか、中学生以上とか、対象年齢を区切っているんですね。これは図書館の中だけの問題ではないと思うんですけども、例えばドロップアウトした人たちが学年を越しちゃったりすると申込みにくいんじゃないかと思うんですよ。年齢か何かで区切った方がよろしいんじゃないかと思います。これは利用者の会の総意じゃなくて、私の個人の意見です。

もう一つは、今日の開催の時期なんですけれども、職員の方や近隣施設の方にとっては、勤務時間内ですが、利用者のことを考えたら、土日の開催とかを考えていただいた方がいいんじゃないかなと思うんですよ。

図書館 イベントの参加者を募集するとき、区の事業では、日本の学歴、学年で募集することが多いです。それが一番相手に伝わりやすいというところはあるのですが、おっしゃるとおり年齢、外国籍の方だと学校が日本の国じゃない、学年が違っていたりもするので、逆に分かりにくいこともありますので、年齢や学年などは今後募集するときに検討したいと思っております。

図書館 次に開催日の件です。2年前まで土曜日に利用者懇談会を開催していましたが、参加人数が多くなかったのが、去年、平日にしてみましたら、追加で机を出すほどの方にいらしていただいたものですから、今年度も平日に開催しました。もちろん、多く参加いただきたいという思いはありますが、平日も土日も参加人数がほとんど変わらなかったのが、今年度は平日開催で光が丘の近隣施設の方にも出ていただいている状況です。しばらくは平日に開催したいと思っておりますが、参加状況によっては土日も考えてみたいと思っております。ただ平日開催にこだわっているわけではなく、平日に変えてみて土日と参加人数が変わらなかったという去年からの状況もあり、ご理解いただければと思っております。

利用者 高齢者の方からぜひ話してきてと頼まれたことを申し上げます。ご高齢の方なので予約カードの番号がなかなか書けない。検索機を見ながら自分が借りたい画像を出して、そのカードの番号をマス目のところに書くのが本当に難しい。他区の図書館に行ったら、システム改良されていて、機械に本の書名などの情報を打ち込むと、レシートのようなものが出てきて、それをカウンターに持っていけば、それが予約カードの仕事をしてくれるのよと。練馬区は、今年システム変更をしたときに、なぜこういうところのシステムを変えてくれなかったんだろう。ぜひ理由を聞いてきてほしいと頼まれました。

図書館 今お話があった件で、システム的には恐らく変わらないと思っています。多分、豊島区は、レシートプリンターと言って、検索したものをレシートで出せる機能がついているものがあります。それは私たちのスタッフの方にはあって出すことはできます。予約カードに全部書いていただかなくても資料名が分かればスタッフで出力しますので、本を予約したいときに書いていただきたいのはお名前と利用者番号です。それも書きにくいときにはお手伝いしますので、スタッフに言っていただければと思います。今日豊島区に確認をしたのですが、お名前とかはご自身に書いていただいているというお話でした。ただ、練馬区ではレシートプリンターは用意していないので、資料番号だけメモしていただければ、予約カード全てに記入していただかなくて大丈夫です。スタッフで出力し、それを貼るという形にしております。図書館のOPACを使える、検索機を使える方というのは、そこでご自身で予約するという人がほとんどですので、ご高齢の方には、スタッフがお手伝いしますので、おっしゃっていただければと思います。

利用者 カウンターで書いてくださいと職員に頼めば書いてくれるんだろうけど、忙しそうなので言いにくいとおっしゃっていました。この予約カードというのはカウンターに提出をするわけですね。今、教えてくださった豊島区のやり方というのは、レシートと言われている印刷物は、借りたいと思っている人が持ち帰れるんですか。これを提出しちゃうと、私の手元に記録が残らない、レシート型だと印刷が自分の手元に来るから、自分の記録で取っておけるんだけどとおっしゃっていました。

図書館 レシートプリンターから印刷されるものは、書籍の著者名やタイトル、どこにその本があるかということしか書いていないです。持ち帰ることを想定してなくて、所在の在りかを確認するために出すものになっています。それを予約するときには書かなくて流用しています。それから図書館に所蔵があるものについては、その場で予約してしまうと完了してしまうので、ピンクカードというのは、どちらかというと未所蔵資料とかを予約するときに使うものですね。未所蔵資料は探すしかないのです。

利用者 最初に申し上げた、なぜシステム変更のときにレシートタイプに練馬区は変更しなかったのかと言うところはどうなのでしょう。

図書館 13館全部の図書館の全部のOPACにレシートプリンターをつけるというのは、それ相当の金額が必要になります。

図書館 今はレシートを出さなくても、スマホで検索していただくと同じ情報を見ることができます。場所も確認することができます。スマホとかお持ちの方であれば、それを見ていただければ同じことができます。今のペーパーレス化の時代とか、いろいろ考えて、他にも図書館でやりたいことはいっぱいあって選んでいくわけですが、申し訳ないのですが、レシートプリンターは優先順位が下がってしまったということです。もっと内情を言

ってしまうと、最初から入っていたら入れられたかもしれないんですけど、最初がそもそも入っていなかったの、今から入れようとすると、予算面でかなりのハードルがあります。

利用者 はい、分かりました。

利用者 光が丘で映画のDVDを借りることがあるんですが、図書館でDVDを見ることはできないでしょうかということと、本の予約数が15件なんですけど、20件とかに増やすことはできないんですかね。

図書館 DVDの視聴については、CDは試しに聞くということができるのですが、スペースの関係等もありましてDVDはここでは見ることはできません。申し訳ありません。おうちに帰って見ていただくという形になります。それから予約数ですが、これも本当に悩ましいところで、多くご要望としていただくのですが、予約数を増やすと、それだけまた皆さんが予約するので、待つというのがとても増えてしまう。そのせめぎ合いというか、何件がいいのかというのはすごく難しいのですが、今15件にしても予約数が、結構、皆さん予約されているので。多分お気持ちとして、新刊とか予約数が多いものを選ぶと、それらも予約点数としてカウントするので、多い方が良いのではないかと思います。また増えた分、同様に予約される人がいると予約数が増えるので、貸出までもっと遅くなってしまいます。検討はしていきますけれども、現状としては15件かなと思っております。

図書館 補足ですが、20点予約のものが用意できても、貸出しできるのは15点のままであった場合は、結論、5点をまた借りられないもので置いておかなきゃいけないというところがあるので、今のところ借りられるものと予約の数を同じにして、用意ができればそのまま全部借りられますよという明快なものにさせていただいています。予約件数を多くしてほしいというご意見をいただいているんですけども、なかなかいいお答えというのは残念ながらできていないというのが実情かなと思っております。

利用者 今のことに関連してなんですけど、結構予約を入れると待つというのが、例えば1年以上待っている本もまだあるんですね。そうするとどんどん予約できる数が減ってくるので、他館から取り寄せて予約して、他館から取りたいものなどの数が減って、今、半分ぐらいは待ちの状況というのもあり、考えていただきたいなど。結構、皆さん予約するので。

図書館 今のお話も心苦しいところなのですが、予約数が多い本につきましては、毎週確認して、なるべく購入するには心がけています。あと、今年の1月から電子書籍も導入しましたので、予約待ちが多い書籍で電子書籍がある場合は電子書籍を買うということも検討しています。ただ一方、ベストセラーをはじめとして過度な副本購入をしてしまうと、書店さんの店頭での売上げの機会を奪っているというような問題も上がってきているんですね。何冊副本を購入するかというのは大変難しい問題なんですけれども、利用状況等を考慮しながら、引き続き検討していきたいと思っています。ホームページを見ていただくと予約の多い本のベストランキングがあるのですが、多い本だと40冊ほど同じ本を購入しています。もっと買うべきなのかというのは本当に悩ましいところで、1年以上待っているとか、多く待っているという本は、なるべく購入できる場合は買うということを真っ先に検討していますので、引き続き、適正な購入に努めていきたいと思っています。

利用者 私は、子どもの頃から自分は本を読んで、図書館にお世話になって、子どもたち

にも保育園から帰ったら、夜寝かせるときに本を読み聞かせて育てて、下の娘が40代なんですけど、これが子どもにも本を読ませたいというふうにやっているんですが、今、小学校ではタブレットを毎日ランドセルに入れて持っていきます。その40代の娘も新聞を取らないんですよ。全てスマホです。孫が小学校に上がって、タブレット、スマホの情報で行くことはもう目に見えている。もう、そういう世の中に生きている、行くというのが目に見えている。そうすると、私が生きてきた活字情報の、活字は活字なんでしょうけど、そういう情報の取り方とは違うことになっちゃう。私は新聞も信用できるなと思うのを購読はしているんですけど、娘は購読しないと。本は読むんですよ。そうやって読ませて育てたから、割と読むんですけど。タブレットも小学校は無料で貸していただいていると。しかし、先進国のイギリスやスウェーデンやフィンランドではタブレットをやめた。学者先生に聞いたら、タブレットを使っていると学力が伸びないんだと。特に小学校の頃は使わせちゃ駄目ですよと、教育学者の方がおっしゃっています。小学校でタブレットの使い方、ノウハウを子どもたちは覚えるでしょうけど、限界とか、こういうことをやってはいけないよとかは教えているんでしょうけど、その親、40代の私の娘たちが子どもにタブレットの使い方やスマホの使い方を教えられるのかなというのが、私のこの頃の問題意識で。自分は活字、紙の本が大好きで、IT情報についての情報を図書館で、例えば、小学校に入るときは、お母さん、お父さんに講演をしていただくとか、または高校生向けに、こういう危ないことがあるんだよとかの企画をしていただけないものかなと思っています。

図書館 ご質問ありがとうございます。今たくさん課題、お話をいただきました。まず、デジタル関係のお話なのですが、様々なデジタル機器の使い方やその危険性をお伝えするというようなことのお話の中で、学校教育でやるということが基本だと思いますが、図書館としてどうなのかという話ですね。本日お配りした「これからの図書館構想」の資料の中で「デジタルを活用して、誰もが情報を得られる」という取組を図書館でも行っています。この中の施策で「情報リテラシーの普及」ということで、いわゆる情報リテラシーというのは、情報をどう扱うとか、あるいはどう活用するのかという、例えば注意事項等をお伝えする、また高齢者向けのスマホ教室も行っています。今後、例えば青少年向けの事業や講座も企画するというので、この辺は10館、指定管理の館もありますので、様々な工夫しながら、ぜひ進めていきたいと思っています。

あと活字文化の話もございました。ご指摘のとおり書店も減っているという状況もあります。区内でも年々書店が減っているということで、図書館としても、活字文化、手に取って活字を読むという貴重な習慣については、図書館の持つ役割も非常に大きいと私どもは思っていますので、最後のとりでにならないように、しっかりと活字文化を守っていくというところは、全館挙げて今後も取り組みたいと思っています。

図書館 補足ですけれども、先ほどお示した本の中に小中学生を対象とした「情報の海の泳ぎ方」という講座をやっております。小中高ぐらいまでは、情報リテラシーということで、自分と情報をどうつなげるかというようなことの講座などは、各図書館では少ないですがやっているところですが、今、ご提案があったのは、小学校に入るお母様とかお父様に、どうタブレットとかスマホを扱えばいいのかという講演会というご提示で、そちらはあまり私たちも発想としてはなかったのかなと思いますので、事業としてどうやっていけるのかというのは検討させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

利用者 人気の本に予約が集中しているとか、予約の件数や貸出しの件数を増やせないかというお話については、思っていたところがあるので、お聞きしたいなと思っております。日本の公立図書館の所蔵について研究された本。光が丘図書館にもあるようですけども、「日本の公立図書館の所蔵」という本があります。これによるとベストセラー本、文庫本、絵本はよく好まれて所蔵される傾向にあるというのは指摘されているところで、まさに利用者のニーズに合っているとは思っております。その結果、いただいた資料の116ページにもあるとおり180万冊ぐらいの蔵書になっていると思うんですけども、練馬区として、あるいは光が丘として、所蔵であったりとか蔵書をするに当たっての傾向であったりとか、特徴みたいなものがあったら教えていただきたいなと思って質問しました。

図書館 練馬区の中で光が丘図書館が一番所蔵が多いところなので、少なくとも区として持っていた方がいいだろうというものは光が丘で所蔵していることが多いです。ただ、全部を置いておくことができないので、図書館はNDCという分類によって本が置かれているので、それを部門別に、こことここをこの図書館が持っていましょうというような分担をしています。光が丘は9類、0類になりますが、最後まで所蔵して、区内で最後の1冊になったときは、光が丘で持っていましょうということをしています。割と貸出しも多いですし、所蔵も多いので、区内では硬めの本が置いてあるところですよ。ちなみに1階の一般書の本棚は、メインストリートがあり、真ん中にモールというのがあるんですけど、入ってきて右側は軽めの小説だったり、家事育児だったり、ガイドブックだったりしています。メインストリートの左側は硬めの本を配置しており、モールの右左は、所蔵の本をジャンルに分けて置いてあります。左側の奥に閲覧席があり、そのそばに参考図書が置いてあるという配置になっています。

利用者 ネットで予約して借りに来ると言ったんですけど、本を借りるときに、私は、朝日新聞の読書欄を見るんですね、週1回土曜日に来る。全ての本を知るわけにいかないので、読書欄の中から読みたそうな本、面白そうな本を予約するんです。大体あることが多いんですけど、例えば値段が3千円以上するとか、そういう本はやっぱり自分では買わないし、図書館のお世話になっているんですけど、図書館に本を入れるときに、新聞の読書欄なんかを参考になさるのですか。

図書館 新聞の読書欄は参考にしています。世の中でどういう本が今人気があるかという意味でも見ますし、未所蔵で図書館に入っていないけれども予約する方もいらっしゃいますので、予約の動向を見たり、専門の新刊書の冊子もあるので、そういうものを参考に選書しています。

図書館 また補足ですけど、図書館は新刊の本が、取次店というトーハンや日販というところから新刊として現物見計らいという形で本が届き、それを見て選書をします。私も朝日新聞の読書欄は毎週楽しみにしていて検索もします。所蔵しているものと所蔵していないものが半々です。新聞の書評と現物見計らいというのは同じタイミングではないので、多分、読んでから書評を書かれるのでずれはあるのと、かなりマイナーな出版社は図書館にはあまり見計らいに入らないことが多いです。書評を見るよりは、概ね現物が先に、新刊が届いて、それを職員がある程度読んで、買う、買わないという選定を行っているんで、新聞の書評等は遅れているというのが実態かなと思います。

利用者 場違いな質問かなと思いつつ、手短かに3点お聞きします。1点目が、「日本の図

書館」という資料集があります。24年版と23年版を見比べてみたんですけども、予算のつけ方なんですけど、23年版は光が丘と練馬に予算がついています。24年版は光が丘のみで、練馬が外れていますよね。この理由は何かあるのでしょうか。

図書館 多分、表記の仕方を、今は光が丘1か所に集めてしまっているんだと思います。練馬図書館に予算がついていないわけではないです。

利用者 それ以外の図書館にも予算がついているんですか。

図書館 予算は、光が丘図書館が中央館的機能を持っているので、光が丘図書館で全館分を持っていて、その中で何々図書館分は幾らというような、分配と言ったら変ですけども、そういう形をとっているの、見せ方をどうするかが変わったのだと思います。金額自体は、23年とか24年の「日本の図書館」は1年前のデータを集めたものなので、その前の年のデータです。コロナの時期は、図書館が休館したり、多少予算が少なめになった時期がありましたので、少ない時期をご覧になっていると思います。減っている時期がありますが、今現在はコロナの前ぐらいまで戻っているような状況で、光が丘1館に出しています。各館もコロナの前ぐらいに戻りつつあるというような状況です。

利用者 そうすると、本を購入する、しないの判断は、光が丘図書館が選書をしているということですか。それで各館に分配する。

図書館 練馬区は、指定管理館と直営館がございます。直営館は職員が現物見計らいしています。それ以外の指定管理館はリストなどを見て、候補として光が丘図書館に本のリストを送ります。それに関して、光が丘図書館の職員が判断を最終的にしておりまして、購入をするということになっています。そのため各館の意向というものは踏まえて選書しております。ただ、この本はどうして購入するのかというやり取りは多少するものもございます。

利用者 それに関連して、先ほど指定管理者とおっしゃいました。配られた資料を見ますと、13館中に11館で指定管理者が入っていますね。指定管理外が2館ということですね。この指定管理者というのは、2010年ぐらい、前から政府の見解でも日図協の見解でも、継続とか専門性とか、サービスの質の低下が懸念されるということで、なじまないという表現をされているんですけど、全国を見ても公共図書館は3,300館ぐらい全国にあります。最新のデータですと指定管理が入っている図書館は674、パーセンテージだと20%ぐらいなんです。ところが、練馬区は13館中11館。とても指定管理の比率が高いんですけど、これはなぜでしょうか。つまり、そういった懸念はもうないという判断、専門性とか継続性とか、そういうものはないという判断でしょうかね。

図書館 この場でなかなか難しいご質問ですが、継続性に関しては、5年に1回更新ということで、さらに延長して10年間同じということが、今のところ一定の評価が得られればという仕組みに練馬区はなっているところです。専門性に関しては、残念ながら直営館の司書の資格者数と、指定管理館の司書率に比べれば、指定管理館が多い状況です。それぞれの指定管理館のスタッフの専門性、それから指定管理の事業者のノウハウというものは、かなり伸びてきているかなと思っております。評価するべきところは、私は評価したいと思っております。残念ながら、なじまないというのは、本当に当初の頃はそういう表現をされていたところがありますが、東京都内而言えば、全館指定管理館という区が多く、世田谷と葛飾以外は半分以上の館が指定管理という区が、今は多いような状況ではあります

ので、地方と23区の違いはあるかなとは思っているところです。

利用者 東京都内においては、直営よりも指定管理の方が上手に運営できる、されているという判断ということですかね。

図書館 私が23区まで代表して言えないのですが、練馬区においては、私どもの指導・監督の下、指定管理館が様々な工夫をいただいているので、私は、今は指定管理館はそれなりにやっつけているという判断をしているところです。

利用者 評価項目の判断基準はホームページで出ていますよね。

図書館 私の係では、指定管理者の指導・監督も含めて担当していますが、モニタリングという仕組みがございまして、これは図書館に限らず、区が指定管理している施設は全てそうなんですけれども、定期的に評価をするということで、モニタリングをした結果についても区のホームページに掲載しています。また、公募して選定する際の評価基準等についても掲載されていますので、それはご覧いただけたと思います。いずれにしても、指定管理か直営か、どちらがいいのか悪いのかという一概的なお話では、なかなか難しいものだど、私ども現場を見て思っていますし、各館、非常に創意工夫した事業も多数展開しておりますし、そういう意味では、私どもとしては指定管理のよさをしっかり生かしていけるような形で運営できればと思っています。

利用者 個人的には利用者として、昔の直営より今の指定管理の方がいいなと思っています。本来は行政がやるべき仕事を民間に投げているわけですから、投げ方に関して相当考えないと先行き失敗するなという気がします。

最後の質問です。今年の7月に、自民党の国会議員150人ぐらいの書店議連というところから書店活性化プランというのが公表されました。これは本来、今、危機にある書店の経営を何とか救おうという趣旨で始めたものなんですけれども、このプランの2項目めに地域における書店と図書館、自治体との連携協働の在り方について考えなさいと。これは経産省から出たものですけど、日図協でもホームページに既に同じようなことが書かれています。つまり、図書館が地元の書店、商店、それから地域と連携した方がいい。協働という言葉を使っていますよね。協働しなさいみたいな感じなんですけど、それについて練馬区はどのように考えていますでしょうか。

図書館 書店との連携については、書店活性化プランより前に、今の図書館の資料というのは書店商業組合から購入しているという形です。今年度から書店組合との連携事業として、先ほど申し上げた光が丘30周年記念の講演会については書店商業組合との共催という形で実施をしました。周知活動を書店さんに協力していただいたり、それから、図書館の予約数のランキングを書店組合の書店で掲示していただいたり等の連携事業を行っています。まずは光が丘図書館と連携事業という形で実施しております。

利用者 分かりました。もう一つ、先ほど経済的に厳しいみたいな話が出ました。それで東京都の税収、ここ5年間ぐらい特に伸びているんです。前年が7.8%増。図書館の図書費と資料費がいまいち伸びていないというところがあるので、できればもっと積極的に東京都に対して。これは普通交付金をもらっていますね。

図書館 特に国からの交付金ではないんです。

利用者 図書館費はどこから出ているんですか。

図書館 私もうまく説明できないのですが、地方は地方交付税交付金をもらっていますが、

23区はありませんので、基本的に交付金ではない状況でございます。

利用者 区の税収ですか。

図書館 税収だけではできないので、地方がもらっているものとしてのお金で、23区はもらえていないので、基本的には何か補助金があるとか、そういうような体制ではないです。地方の図書館は社会資本整備総合交付金等ももらっています。

利用者 東京以外の幾つかの自治体は国から地方交付税交付金をもらっていないんです。東京都は、東京都の税収と、あと、練馬区の税収からお金を捻出しているわけですよね。それは官僚の問題だと思うんですけど。東京都はとてもお金持ちです。どんどん要求していかないと。これだけ必要だからと手つなぎ方式で要求してほしいなと思っています。

利用者 二つ質問と、一つは思いつき半分のご提案なんですけども。新刊本を適切に蔵書にすることというのは、すごく大事な仕事だし、やっていらっしゃると思うんですけども、いわゆる既刊本ですね。既刊本の中でも、特にある程度、専門性があるとか、こういう区分があまりいいかどうか分かりませんが、趣味とか一般的な関心ではなくて、例えば事業に使うとか、地域での活動に役立てるとか、そういうときに必要な一定の専門性のある書籍を系統的に収集なさっているのかどうかというのが1点目です。もう1点は、地域の学校への団体貸出しをやっていると思いますよね。これの実績、あるいは団体貸出しを通じた学校との連携の在り方とか、そういうことが今どんなふうになっているかというのをお聞きしたいと思います。

図書館 まず、未所蔵の予約をいただいた場合に、購入するか他区または他自治体から借りるかという選択がございます。これに関しては、他区から借りた方が早い場合が残念ながら多いのでお借りして、そのときに現物を見て、あった方がいいなというようなものは購入しています。収集に関しましては、収集方針があることと、共同選書という練馬区に1冊あるべきものを、選書する仕組みはありますので、それにかけて練馬区内に1冊はあった方がいいというものを会議で決めて購入しています。それがご予約いただいているのかどうか、ご質問の回答として合っているか分かりませんが、そういうやり方をしています。

図書館 130ページのところに、小中学校への支援ということで、団体貸出しと、それから幼稚園や小中学校にどんな支援、学級招待というのは学級をよぶ感じですね。学級訪問というのは図書館の職員が出向く形ですね。職場体験というのは来てもらうことがほとんどなんですけれども、小学校、中学校、高校の子どもたちが、カウンターに入ってみたり、配架をしたりする事業がこのような形で行われているところです。お答えにかみ合っていますでしょうか。

利用者 ありがとうございます。最初の選書は、多分お聞きしたかったことと違ったかなと思うんですけども。毎週毎週、毎日毎日たくさん本が出ますよね。その本を全部当たって選書するという事は、そもそも技術的には物理的にも無理だろうから、一定のガイド的なリストとか、さっき見計らいとおっしゃったけども、そういう手段を使って新刊本についてご選書をなさっていると。それでもそれなりかなりいっぱい仕事の事かなと思うんですけども。希望があったから探すというのだけじゃなくて、こういうテーマで過去に遡って出版物を当たってそろえてみようとか、そういう意味での意識的な収集とか、意識的と言っては失礼かもしれませんが、何かテーマを決めておやりになってい

るのかなというのが知りたかったんです。「これからの図書館構想」の中にも、かなり世界の知と出会いとか、文化の継承とか、創造を生み出すとか、言葉としては結構クオリティーの高い蔵書のバックアップを必要とするなどということも書いてあるので、それは単に新刊本を適切に選書するだけじゃなくて、もう少し深掘りしていくとか、蔵書の奥行きをつくるということがいるかなと思うんですね。私は仕事柄、行政関係とか自治体関係の資料を探ることが多いんですけども、練馬区の図書館じゃなくて、他区、他市にはあったりする本というのが結構あるんですよ。もちろん、都立図書館に行けばもっとあったりするんですけども、そうやって取り寄せをいただいているので大変ありがたいんですけども、これぐらい基本的な本は練馬に1冊はほしいなというのがしばしばあるので、そういうものを遡って選書、収集なさるとということもやったらどうかなという問題意識だったんですけども、そういう意味で、選書の在り方を詳しく知らないので違ったら申し訳ないんですけども、蔵書の奥行きを広げるような取組をいただけたらいいかなと思ってお聞きしました。

それから学校の話の、学級招待というのを今初めて気がついて、こちらは結構な数があるんですけども、これは学級単位で授業時間中に来るんでしょうか。

図書館 そうです。学級単位です。

利用者 その場合に、例えば学校の先生とか、学校司書の方でも、積み上げとか調整とか準備というのをずっとやっていらっしゃる感じ。

図書館 はい。

利用者 図書館は基本的に蔵書にし、貸出し、借りるというベーシックな事業はあると思うんですけども、それとは別に、今後の図書館のことを考えたときに、図書館という空間を蔵書を活用して作っていくというような、そういう取組ができないかなというのを、半分夢みたいな感じで言っているんですけど、思うことがしばしばあって。例えば、図書館の休館日に子どもたちに学級単位とか学年単位で来てもらって、子どもたちに自在に本を探してもらって、探してもらった本を通して本に触れるとか、学ぶとか、発見するとか、そういうプログラムを企画してみるとか、そうやって図書館という空間とたくさんの蔵書の蓄積を生かすような事業はできないのかなというのを思ったりしています。ネットで本を探せるし、注文できるし、借りるだけだったら別にこちらに行かなくても今は窓口がありますから、借り入れたりする中で、あえて図書館に来て、書籍に触れて、書籍に触れる楽しみを実感できるようにするためには、とても意識的な努力が必要だろうという気がします。そのためには、図書館の企画力とか、特に学校との連携というのはすごく大事だと思うので、学校司書さんとの連携も含めて、そういう取組をいただけたらいいかなと思っています。これは半分思いつきなんですけども、ご意見いただければと思います。

図書館 最初の本のお話なのですが、先ほども、図書館で光が丘が文学と総記の分担という話をしましたけれども、そこに関しては、練馬区内の中で、しっかり責任を持って所蔵していかなければならないと考えているので、既刊本に関しても必要と判断すれば購入しています。ただ、それが全部の館ができていると言われると、できていない部分があるのかなとは思っています。蔵書に関しましては、新刊を買うだけではなく除籍するところまで、もう少しいろいろとやっていきたいというのは、私自身も他の図書館を見に行くと思うところはあります。体制としてはできているんですけども、図書館の蔵書構成は、

その年で分からなくて、何年後かに、この分野の本が足りている、足りていないというのが分かるので、そういうところは、もう少しいろいろとやっていかなければいけないなと思っております。

図書館 休館日の事業としては既に「としょかんたんけんたい」を毎年やっています。光が丘では小学校の低学年の生徒さんに来ていただいて、書棚を歩いたり、ふだん見られないバックヤードという閉架書庫を見たり、本に興味を持っていただけるような努力をしております。学校との連携というところでは、図書館探検ラリーを行ったり、学校図書館へは団体貸出しや読み聞かせ、図書館ごとに読み聞かせということで、活字文化を子どもたちに伝えるということをボランティアの方のお力を借りながら進めているところです。

利用者 分かりました。

利用者 117ページと118ページの利用状況等というところで、数字を見ながら考えたところで、もしお手元にデータがあれば追加で教えていただきたいところなんですけれども。例えば、個人の貸出点数であったり、個人の利用登録者数であったりというのは、図書館ごと、あるいは全館の合計というのが出ていて、練馬区全体で見ると、例えば個人利用登録者1人当たりの貸出点数というのが大体29.8点、30冊ぐらいというふうに1年間で簡単に見積れると思うんですけれども、これは経年で見ると増えているのか減っているのかというのは分かったりするんでしょうか。

図書館 残念ながら貸出しは日本全国で落ちているというのが事実で、練馬区も落ちています。コロナでぐんと下がって、コロナが終わった後かなり伸びた後、再度落ちているというのが事実です。貸出しも利用数も貸出人数もみんな落ちています。ただ、全国の落ち方、または23区の落ち方に比べて、練馬区の落ち方は緩やかな状況ですが、残念ながら右肩下がりという状況です。

利用者 ありがとうございます。もう1点、ここには載っていないんですけど、ここにいらっしゃる方は図書館をよく利用されているということで、借りるとは思うんですけど、買うというのも実際に書籍に当たる一つの方法だと思っているのですが、どのぐらいの割合で借りている、あるいは、どのぐらいの割合で買っているみたいなのを利用者に行ったこととかはあったりするんですか、図書館利用者に対して。

図書館 個人が買っているものと借りているものがどれぐらいの割合でありますかというのを子どもがお尋ねしているかという意味合いでしょうか。

利用者 そうです。点数でもいいですし、例えば金額ベースでもいいんですけれども。

図書館 利用者アンケートではないのですが、子ども読書のところで、今回、子ども読書の調査をしたところ子どもが割と買っていると答えをしているんです。なぜ図書館利用しないのという理由を聞くと、買っているからというお答えをいただいています。多分これは電子書籍や漫画を買ったりしているとは思いますが、紙ではないと思いますけれども。なぜ図書館を利用しないのという理由で、その中で買っているからというのが、一番多かった気がします。これは小中高校生までですけれども、そういうアンケート結果が出て、私たちはすごく衝撃的だと思いました。残念ながら大人の方には聞いていないのと、一般の普通の大人も子どもを合わせた利用者アンケートの質問の中にはないので、分からない状況です。

利用者 図書館を利用する人が減っている、買っている額というか点数も分からない。そ

の一方で、利用者としては蔵書を増やしてほしい、あるいは予算をつけてほしいとのせめぎ合いがあるというふうに勝手に理解しているんですけども、限られた予算の中で、どう本を増やすかといったときに、個人の意見としては予約がたくさん殺到している本を増やそうというよりは、そういう本は流行もあったりすると思うので、増やした分、継続的に貸し出されるかという疑問な部分もあるので、そこは一定、それこそ書店との兼ね合い、新刊であったりというのは、特に書店においては売れ筋のものを図書館がパイを分け合う形になってしまうと思うので、その在り方は考えてもいいのかなと思ったところがあります。

図書館 ご意見を様々にいただいたところですが、近隣の施設の方からもせっかくですのでご意見をいただきたいと思っております。図書館では地域の施設の連携という項目もあります。その辺も含めて、今の形と毛色が変わる形になるかもしれませんが、どんな形で図書館と連携しているかをご紹介いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

光が丘保健相談所地域保健係 図書館との連携ですが、4か月健診でブックスタート事業のご紹介をさせていただいております。ブックスタートの引換券を保健相談所で4か月健診に来られたときにお渡しして、それをご本人たちがお住まいの最寄りの図書館に行って引き換えていただくような事業になっております。図書館に行って読み聞かせや本の紹介をしていただいて、早い段階から絵本に触れていただけるようにしております。保健師から、絵本の触れ方については、育児支援の中でお話をさせていただいて、選書した本がハードカバーで噛んでも大丈夫、安全な本ですよとお伝えしています。スマホがかなり身近になっている世代の方たちが多くなっておりますので、1歳半健診などを見ていると、お子さんがスマホをずっと見続けているような場面が多くなっておりまして、小学校に行くタブレットになるんですけど、小学校よりも早い段階からそういうものに触れていることを私たちも危惧しておりますので、できるだけブックスタートのときにお声がけをさせていただいているというところを意識しております。地域文庫活動では、月1回の育児栄養歯科相談で、光が丘の場合はかんがる一文庫という文庫活動をしていただき、貸出しをしております。毎年1回、図書館から本をいただきまして、古くなったものと新しいものを入れ替えて、きれいなものをお母様方にもご紹介できるようにと。この文庫活動は無料で貸出しをしており、満足いくまで読んでくださいということで、5冊程度を貸出しして、満足したから次のものという形でお母様方が選んでいく仕組みになっております。文庫活動は各保健相談所で取り組んでおり、私たちは乳幼児期と言われる3歳までに本に触れるということに関わらせていただいております。

光が丘なかよし児童館 区内の児童館も非常に限られた予算の中で運営をしているので、図書館のリサイクル資料などに非常にお世話になっているところです。保健相談所さんでブックスタート事業をやっているんですけど、すごく乳幼児の親子ほど本に触れ合う機会が必要なのかなと思っています。また一方で、図書館は昔から中高生世代を対象にいろんな模索をされていますが、児童館も今、中高生世代に向けた取組を強化しているところで、一部の児童館では中高生に向けて図書館で児童館からゲームを持ち込んで一緒に遊んだりというような企画をやっています。そういった連携をこれから区内の児童館と図書館の中でも進めていけるといいかなと思っています。

青少年育成光が丘地区委員会事務局 光が丘地区の学校は当初は8校あったのが、4校に

なってしまったということで、子どもの数が大分減っています。光が丘図書館が平成7年に開館し、平成8年度から光が丘図書館長にも地区委員会の委員になっていただいて、光が丘全体での児童・生徒の健全育成に携わってきました。委員の役割としては、東京都が図書指定をしており、児童・生徒により優良図書の選定や不健全な図書の指定を東京都がやっておりますので、その通知が練馬区の各地区委員会に送付されます。図書についてのアドバイスをいただくために光が丘図書館館長に委員になってもらっていたのではないかと思います。今は図書館からは委員になってもらっていませんが、優良図書等の指定は継続してやっておりますので、情報を図書館と一緒に共有しながら、児童・生徒の健全育成に役立っていただければと思っております。

光が丘地域包括支援センター 図書館はいろんな年代の方も来てくださいますので、事業統括係さんにご協力いただき、練馬区の出張型街かどケアカフェと一緒に開催していただいております。今年も聞こえのことや、住まいことなどを一緒に開催させていただきました。とてもよかったというお声もいただいております。補聴器といいたまうか、耳のところの実際の中を見せてもらえるような、そんな事業者さんも来てくださったので、人数が少なかったのが残念なのですが、次回に向けてたくさんの方に来ていただけるように工夫ができればと思っております。

光が丘障害者地域生活支援センター 当センターは自由利用で、好きなときに開いている時間であればお越しいただいて、障害のある方に過ごしていただける施設ですが、定期的に来られている方で、当センターは火曜日がお休みなんですけれども、その日にどこに行っていたんですかと話をすると、図書館に行っていたというお答えが結構多いので、皆さん、本が好きとか嫌いとかに限らず、居場所として利用しているんだなというのを感じています。また障害がある方に対しては、関わりが難しいところもあるかもしれないということで、当センター施設長が「障害のある方との関わり方」という図書館職員向けの研修をやらせていただいています。今後とも連携していけたらと思いますので、よろしくお願ひいたします。

図書館 終了時刻までお時間がございます。ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

利用者 先日、ノーベル文学賞が発表になりました。図書館としてもなるべく優先的に買うようにしていただきたいと思ひます。日本にも芥川賞、直木賞がありますのでこちらも優先的に買っていただきたいと思ひます。

図書館 ご意見として承って、選書する者にきちんと伝えます。

利用者 先日、私の探しに来た本がみんな閉架図書にあったんです。閉架は本当に限られておりますので、どうしても閉架に行ってしまうものがあると思うんですけれども、予約した本以外にも、ぶらっと歩いて出会える本というのも図書館の魅力だと思うので、光が丘図書館で閉架図書に置く基準みたいなものがあつたら、どんなものが置かれているのかなというのが一つ目の質問です。

2点目は、ここで聞いておいた方がいいのかなと思うんですけど、貫井図書館の改築が延期になりましたね。今後の見通しというか、私たち練馬文庫連は結構貫井図書館を世話人会で使うことも多いので、そのこと。あと、実施設計もずっと進んでいっていると思うので、そういうものは、これから予定どおり行われていくのかを伺いたひと思ひます。

図書館 どのような本が閉架に行くかということなのですが、基本的には出版年が古いも

のとか利用度が低いもの、動きがある本は閉架にあると私たちも効率的によくないので、出版年とか利用頻度によって見て、全部開架に置きたいというのはやまやまなんですけれども、やむを得ず閉架という形になる場合もあります。

利用者 それはどなたが判断するんですか。

図書館 専門にやっている専門員が、それぞれ棚を管理していますので、棚の状況を見ながら、これを閉架に移そうとかを全体で話し合っていて決めています。

図書館 2点目のご質問です。文庫連さんがいらっしゃっているということで、その質問が出るのかなと楽しみにしていました。お時間が限られているので、簡単にご説明させていただきます。既に館内の掲示もしておりますので、皆さん御承知かもしれませんが、9月上旬に、解体工事、建設工事を見送るということと当面開館を継続するというお話をさせていただいております。今現在、建設市場の調査や発注先のゼネコンがどうなるのかというような調査に取り組んでおります。9月の段階で、建設需要は非常に厳しいという結果が手元に来ているものですから、少なくとも9月の時点で、1年程度はそういった発注の可能性を探るとか、そういったことにかかるんじゃないかというような見通しを持っているところです。ただこの先どうなるのかというのは、まだ何とも言えないところでございますので、区としては、きちんと方向性をお出しすることが求められていることは承知してはいますが、決まり次第、館内掲示やホームページでお知らせさせていただきます。あと、実施設計も1月に完了ということなんですけども、まとめ次第、区議会ですとか、区民の皆様公表するということになります。実施設計もきちんと進めていき、基本設計のときと同じような形で資料をお示しするということになるかと思えます。

利用者 特に光が丘は閉架が多くて、多分貸出しも多いので、貸し出されると抜かれて書棚になくなるんじゃないかと思うんです。だから、貸出しがあったら閉架から戻してほしい、オーソドックスな子どもの本は閉架にあることが多いんじゃないかと思っています。あと光が丘利用者の会として2か月に1回会報を出しているんですけども、今年度後半からは中高生を図書館に取り込むためにどういう企画をしているかということで、いろんな図書館を回りました。いろんな図書館がとても一生懸命いろんなことをやっているんですが、参加人数が少なかったり、あるいは図書館からなかなか連絡が届いていないんじゃないかと。要するに、他の図書館でやっていることは分からない。そういう事業の連携というか、連絡というか、そういうものが各図書館できちんと伝わったり、学校に連絡が入っているのかなというのがすごく疑問に思いました。

光が丘図書館も今年度から日にちを決めて、この会議室を中高生に開放していますよね。それはどのぐらいの需要があるのかどうか教えていただきたいと思えます。

図書館 児童書の副本が多いものについては閉架に下げたまま、貸出回数が多いのに下げていたりするので、先ほどおっしゃったとおり、開架書架に残った1点を借りられてしまって、たまたま探されたとき、閉架に行っているということがあるのかなとは思っています。専門員が必ず見て補充しているんですが、お声がけいただければ貸すことができます。

若者支援では、毎週水曜日にグループ学習室という形で、図書館は声を出しちゃいけない施設だと思込んでいると思えますが、ここでは声を出し合って本を読んでもいいよ、

教え合っているよ、気づいたことを語り合っているよという場所として視聴覚室を使っています。初めは2、3人の利用だったんですけども、最近では7、8人ですね。試験前になりますと14人、15人という形で来ております。毎週水曜日、夏休みも開催させていただきました。

利用者 小竹図書館の懇談会に出たときに布の絵本の方が「こんなに汚れて帰ってくるとうれしいの」と言ってくださったんですね。けれども、以前どこかで、幾つ足りなかったからとか結構厳しく言われて、だんだん借りなくなったり。あと布の絵本は、春日町南区区民館でお話し会をするときに使わせていただくことが多いんですけども、すごく子どもが喜ぶんですね。小竹図書館の布の絵本の方にはもっと小さい子どもの用の0、1、2ぐらいで使えるような布の絵本を作ってもらえたらうれしいわと。布の絵本の制作のときに図書館側から何か希望を出したり、具体的にこんな本を作ってくださいみたいなことはあるのでしょうか。

図書館 布の絵本サークルの方が自分たちで制作したいというものを大体選んでいただけていまして、あとは自分たちで創作したい本、もともとある絵本を作るときには著作権というところがかかってくるので承諾を得られなかったりするのですが、ご自分たちで創作して作られたりしているような形です。図書館からこれを作ってくださいという要望を特にしたということはないと思っています。

利用者 図書館のホームページが変わって見やすくなったなという印象があって、特に気に入っているところが、読書記録が入って、過去に借りた本の一覧がずらっと並んでいて、月によって件数とか内容が見えるのが、私はすごく気に入っています。2024年と2025年の履歴が見えるということなんですけど、来年になったら2024年は消えちゃいますか。

図書館 設定で読書記録を「残す」「残さない」というのが選べますが、「残す」という設定を変えなければ履歴が残ります。ずっと残るので使っていただければと思います。記録として残したいという要望が一番多いので、皆さんの要望を反映して今回導入し、システム更新のときにホームページもリニューアルしたのですが、そのときに真っ先に入れようということになりました。

利用者 前は過去の履歴を見られなかったもので、前に読んだ本を本人は名前覚えていないので、図書館のスタッフの方にうまく説明できないので本が探せないというときがあったので助かります。ありがとうございました。

図書館 設定を最初に「残す」にしていないと、今も消えてしまいます。初期設定が「残さない」方になっていますので「残す」というのをクリックしてください。初期設定を変えずずっと継続して残してください。よろしく願いいたします。

図書館 それでは、お時間も近くなりましたので、今日はいろいろとご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。今後の図書館運営に反映していきたいと思っています。

先ほど土日や休館日に図書館を活用できないんですかというお話がありましたので紹介します。南大泉図書館の事業になりますが、休館日に石神井特別支援学校の生徒さん19人を受け入れております。大きな声を出されたりしてどうしても遠慮されてしまうので、休館日に来て、自分で好きな本を選んだり、自動貸出機の体験をしています。体験講座等は今後も引き続きやっていきたいと思っています。

6 閉会の挨拶

本日は、皆様にいろいろなご意見をいただきましてありがとうございました。検討することがとても多いのですが、検討結果につきましてはお時間をいただき、ホームページに掲載させていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。これで令和7年度光が丘図書館利用者懇談会を終了させていただきます。